

東京都墨田区の庭園

庭園 葛飾区・墨田区・江東区・江戸川区

- 01 葛飾区
- 02 墨田区
- 03 江東区
- 04 江戸川区

02 墨田区の庭園

向島百花園 旧安田庭園 隅田公園 大横川親水公園（もみじ谷溪谷） 横綱町公園

向島百花園 02 墨田区01 東向島

<https://oniwa.garden/mukojima-hyakkaen-garden-%e5%90%91%e5%b3%b6%e7%99%be%e8%8a%b1%e5%9c%92/>

<http://teien.tokyo-park.or.jp/contents/index032.html>

向島百花園（むこうじまひゃっかえん）は、東京葛飾区にある、昭和8年という早い時期に国指定名勝となり、都立9庭園の一つです。昭和53年10月に文化財保護法により国の名勝及び史跡の指定も受けています。

民営としての百花園の歴史は昭和13年まで続き、同年10月に最後の所有者の小倉未亡人から東京市に寄付されました。

庭を造ったのは、それまで骨とう商を営んでいた佐原鞠塙で、当時、旗本だった多賀氏の屋敷跡を購入したのが始まりです。当初は梅が360本も植えられ、当時有名だった亀戸の清香庵字臥竜梅の梅屋敷に対して「新梅屋敷」と呼ばれました。徳川第12代将軍・徳川家慶の梅見や、明治時代には皇族関係といった著名人が訪れたと記されています。

その後、ミヤギノハギ、筑波のススキなど詩経や万葉集などの中国、日本の古典に詠まれている有名な植物を集め、四季を通じて花が咲くようになりました。「百花園」の名称は、一説では、「梅は百花に魁けて咲く」または「四季百花の乱れ咲く園」という意味でつけられたようです。



花の咲く草花鑑賞ができる庭園です。

現在は、池越しに東京スカイツリーを眺められます。

アクセス

東武スカイツリーライン 東向島駅より徒歩 6分

京成押上線 京成曳舟駅より徒歩 13分

〒131-0032 東京都墨田区東向島3丁目18-3

【カシャリ！庭園めぐりの旅】

http://www.glomaconj.com/butsuzou/meisho/tokyo/sumidaku02/2602tksumida01mukouji_mahyakkaen.html

旧安田庭園 02 墨田区02 両国

<https://oniwa.garden/kyu-yasuda-garden-%e6%97%a7%e5%ae%89%e7%94%b0%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

<http://visit-sumida.jp/spot/6085/>

「旧安田庭園」（きゅうやすだていえん）は、江戸時代に笠間藩・本庄松平氏の屋敷に作庭され、近代には安田財閥も所有した、東京スカイツリーを借景とする江戸時代の大名庭園で、東京都指定名勝にもなっています。

両国国技館からすぐの場所にあり、借景には東京スカイツリーや東京都慰霊堂(三重塔)がのぞめます。

茶色い円状の建物「両国公会堂」の跡地に、2018年1月新たに「刀剣博物館」がオープンしました。円状を踏襲された新たな建物の設計は槇文彦氏によります。

アクセス

JR総武線 両国駅より徒歩 5分、地下鉄大江戸線 両国駅より徒歩 8分

〒130-0015 東京都墨田区横網1丁目12-1

開園時間 4月から9月は 9:00～19:30、10月から3月は 9:00～18:00

夜間ライトアップ 日没後から閉園まで

休園日 年末年始



【参考資料】

もと常陸国笠間藩主本庄因幡守宗資により元禄年間（1688～1703）に築造されたと伝えられる。かつては隅田川の水を引いた汐入回遊式庭園として整備される。明治維新後は、旧備前岡山藩主池田侯の邸となり、次いで安田善次郎氏の所有となりました。氏の没後大正11年東京市に寄附されました。関東大震災後、太平洋戦争を経て東京都から墨田区に移管され、全面的改修を行い、復元、開園しています。現在は、ポンプにて人工的に潮入が再現されている。



隅田公園（水戸徳川家小梅邸跡） 02 墨田区 浅草

<https://oniwa.garden/sumida-park-%e9%9a%85%e7%94%b0%e5%85%ac%e5%9c%92/>
<http://visit-sumida.jp/spot/6133/>

「隅田公園」は、隅田川を挟んだ、その川沿いにある台東・墨田両区立の公園で、8万平米の広さを持っています。

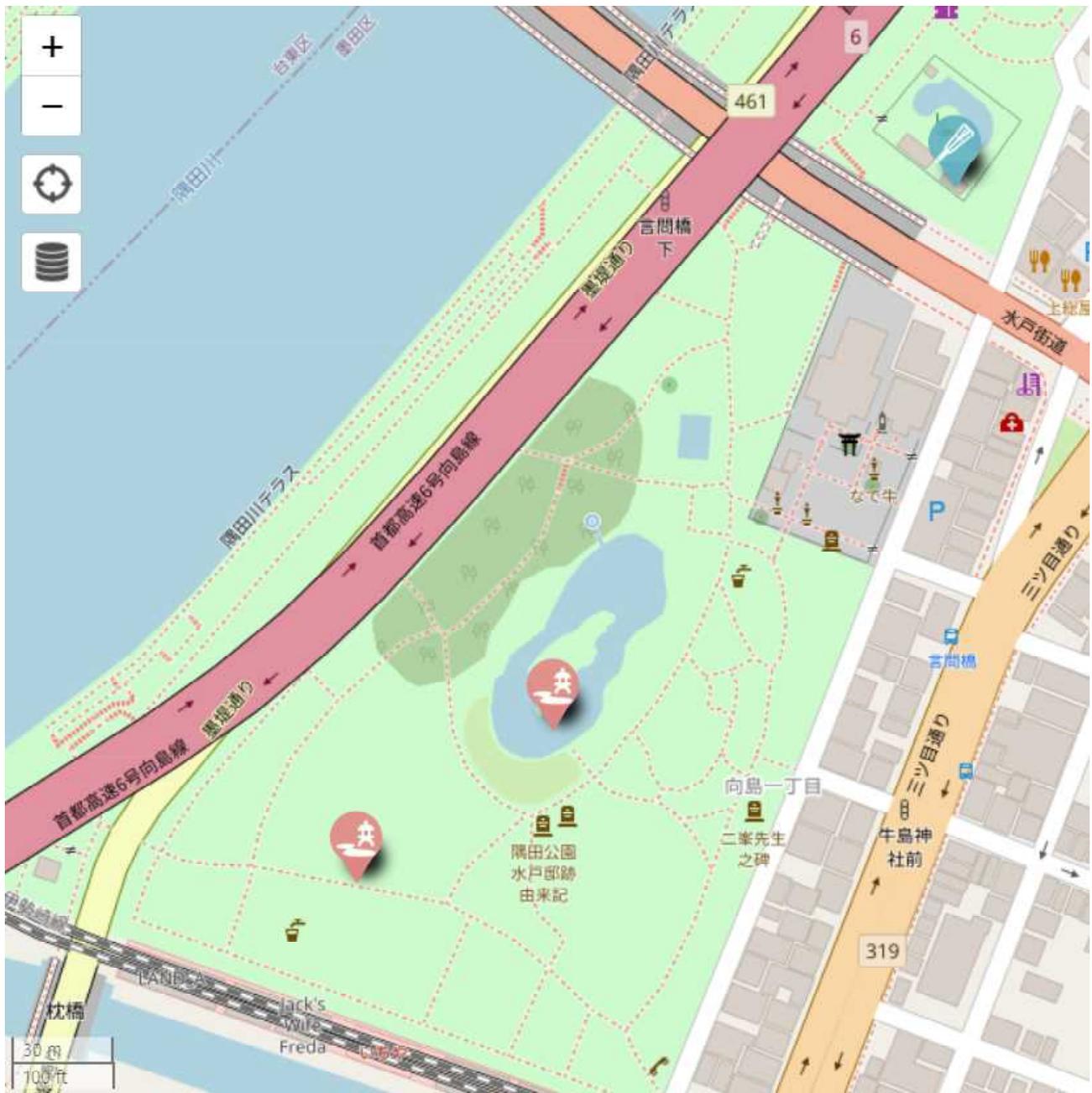
春は桜の名所として、夏には、隅田川花火大会が開催されます。

墨田区側の敷地は、かつて「徳川御三家」のひとつ、水戸徳川家の江戸下屋敷である「小梅邸」があった場所です。現在公園内に残る池泉回遊式庭園はその名残りの遺構です。関東大震災後で屋敷が全壊するまで代々ここに住んでいたと伝えられます。

近年は、東京スカイツリーに近い日本庭園であることから訪れる人が増えてきているようです。墨田区側の公園内には「三輪鳥居」が特徴的な、牛嶋神社が鎮座しています。

アクセス / Access

地下鉄 浅草駅より徒歩 10分





大横川親水公園 紅葉渓谷 02 墨田区 錦糸町

<https://oniwa.garden/oyokogawa-shinsui-park-%e5%a4%a7%e6%a8%aa%e5%b7%9d%e8%a6%aa%e6%b0%b4%e5%85%ac%e5%9c%92/>

http://www.gotokyo.org/jp/kanko/sumida/spot/s_1047.html

東京スカイツリーの南側にある大横川親水公園は、墨田区立の公園です。墨田区内を流れている大横川が埋め立てられて、平成に入ってから完成した親水公園です。

園内は、釣川原、河童川原、花紅葉、パレットプラザ、ブルーテラスの5つのゾーンに分かれています。釣川原ゾーンで散歩したり、河童川原ゾーンで子供と水遊びをしたり、ブルーテラスゾーンでスポーツを楽しむことができます。

南北約2kmにも及ぶ広さを誇り、「紅葉渓谷」エリアは東京スカイツリーを借景としながら、和風庭園のような石組みと流れ、そして紅葉を楽しむことができます。

アクセス

JR中央総武線・東京メトロ半蔵門線 錦糸町駅より徒歩10分（紅葉渓谷エリアまで）

〒130-0005 東京都墨田区東駒形4丁目14-1

定休日： 年中無休



0205 横網町公園 日本庭園 02 墨田区 両国

<https://oniwa.garden/yokoamicho-park-japanese-garden-%e6%a8%aa%e7%b6%b2%e7%94%ba%e5%85%ac%e5%9c%92/>
<http://tokyoireikyokai.or.jp/>

「横網町公園（よこあみちょうこうえん）」は、墨田区両国駅近くの旧安田庭園からも遠くないところにある、東京都立の公園です。

公園内には、昭和初期に、平山勝蔵作庭の日本庭園があります。

公園の歴史は古く、昭和初期に完成しています。工事の最中に関東大震災が発生し、多数の犠牲者が出たこと、また第二次世界大戦の東京大空襲でもこの地に犠牲者が仮埋葬されたことから、三重塔も備えた「東京都慰霊堂」（伊東忠太による設計）や昭和初期に造られた「東京都復興記念館」といった建築があります。

アクセス

JR中央総武線・両国駅西口より徒歩8分

都営地下鉄大江戸線両国駅（江戸東京博物館前）下車A1出口より徒歩2分
〒130-0015 東京都墨田区横網二丁目3番25号 03-3622-1208





横網町公園園内マップ

【参考資料】

都立横網町公園は慰霊と伝承の公園です。

<https://tokyoireikyukai.or.jp/park/history.html>

大正 11 年（1922 年）、東京市は、陸軍被服廠（軍服などを作る工場）の移転に伴い跡地を買収し、公園の造成を進めていました。そ大正 12 年（1923 年）9 月 1 日に関東大震災が発生し、ここ被服廠跡に周辺の人たちが家から布団や家財道具を持ち出し、続々と避難してきました。

ちょうど昼時であったことと、台風の余波で強風が吹いていたこともあり、各所で火災が発生しました。この被服廠跡にも強風にあおられた炎が四方から迫り、家財道具などに燃え移り、激しい炎となり、一気に人々を飲み込みました。この地だけで、3 万 8 千人もの尊い命が失われてしまいました。

関東大震災の死者は、当時の東京府市合わせて 7 万人を超えました。諸霊を弔慰するために、大正 12 年 10 月 19 日に、東京府市合同の大追悼式が挙行されました。翌年には、東京

府市合同で震災歿死者一周年祭並びに法要が行われ、以来絶えることなく今日まで続けられてきました。

当初「大正震災記念公園」と仮称された公園でしたが、昭和5年（1930年）に「横網町公園」として開園しました。しかし、昭和16年（1941年）に太平洋戦争が勃発しました。空襲による都内犠牲者の数は、10万人をはるかに超え、震災遭難者約5万8千人と合わせて16万3千人の遺骨が東京都慰霊堂として祀られました。

平成13年（2001年）には、花壇と一体となった「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」が建設され、園内が華やかになりました。

名称 都立横網町公園（とりつよこあみちょうこうえん）

開園日 和5年（1930年）9月1日

開園面積 19,579.53m²

東京都慰霊堂

慰霊堂は、大正12（1923）年の関東大震災の後に、東京市内で災害の最も悲惨であったここ被服廠跡に、遭難死者のご遺骨を納める霊堂として建てられ「震災記念堂」と名付けられました。

そして、遭難者の霊を祀り、その加護によって今後このような災害の起こらないことを祈願するため、毎年9月1日の震災記念日に慰霊大法要を執り行い、併せて「焦土のなかから東京を復興させた官民の熱心な協力」の思い出をあらたにしようとしたものです。

ところが、その悲願も空しく、21年を経た昭和19（1944年）の冬から、首都東京は戦争により空からの爆撃を受けて、関東大震災の数倍もの惨禍を被りました。

そこで、この戦災遭難者の霊と御遺骨を併せてこの堂に奉安し、昭和26（1951）年9月に名称を「東京都慰霊堂」と改め、最も被害が大きかった東京大空襲の日の3月10日にも毎年東京都慰霊協会主催による慰霊大法要が行なわれるようになりました。

利用時間 9:00～11:30【年末年始休み】

施設概要 竣工日 昭和5（1930）年4月30日

構造 鉄骨鉄筋コンクリート造

延床面積 1,470 m² 最高高さ 40.9m

設計者 伊東忠太

納骨数 震災 58,000体 戦災 105,000体

東京都復興記念館

震災復興記念館は、大正12（1923）年9月1日に発生した関東大震災の被害や修状、その後の復興事業を伝えるため、昭和6（1931）年8月18日に開館しました。

館内には、震災復興を祝って、昭和4（1929）年9月に開かれた帝都復興展覧会の展示品、絵画や写真、図表、被災資料及び市民からの寄贈品などが展示されています。

震災から立ち直った東京は、太平洋戦争末期の空襲で再び焼け野原となりました。そこで戦後、戦災関係資料の展示が追加され、「東京都復興記念館」と名称を変更しました。

今では震災・戦災の記憶とともに、昭和初期の都市計画や街づくりを伝える貴重な展示施設となっています。（正面玄関前案内板より）

休館日 年末年始及び月曜日(祝日の場合は翌日)

竣工日 昭和6（1931）年4月17日

構造 鉄筋コンクリート造二階建

建築面積 174.27坪(575.09㎡)

延床面積 356.09坪(1,175.09㎡)

c copyright N. Imai All rights reserved